

# 医療資源充足地区でがん 在宅医療を更に充実するには？

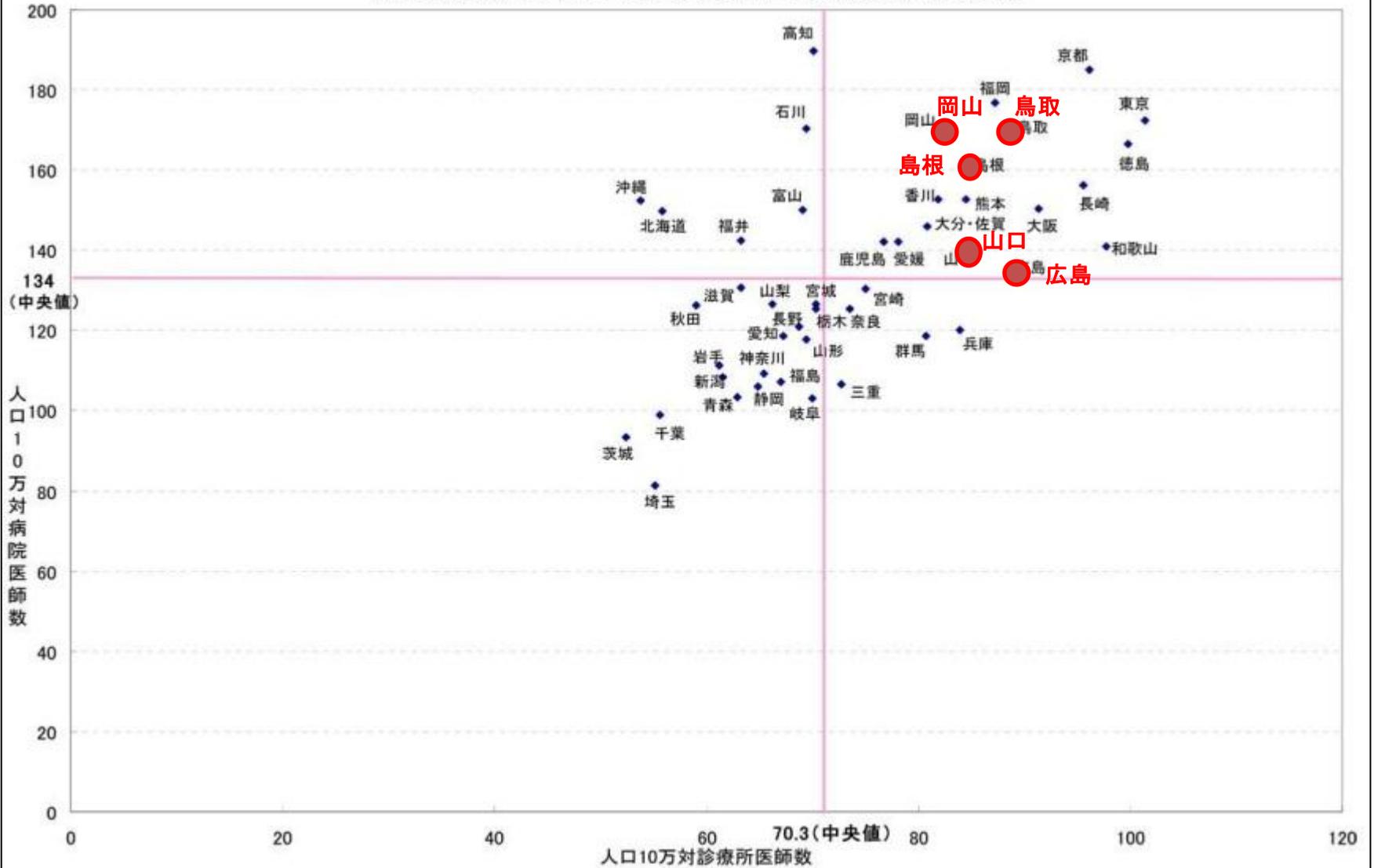


国立病院機構米子医療センター  
山本哲夫

# 本日の内容

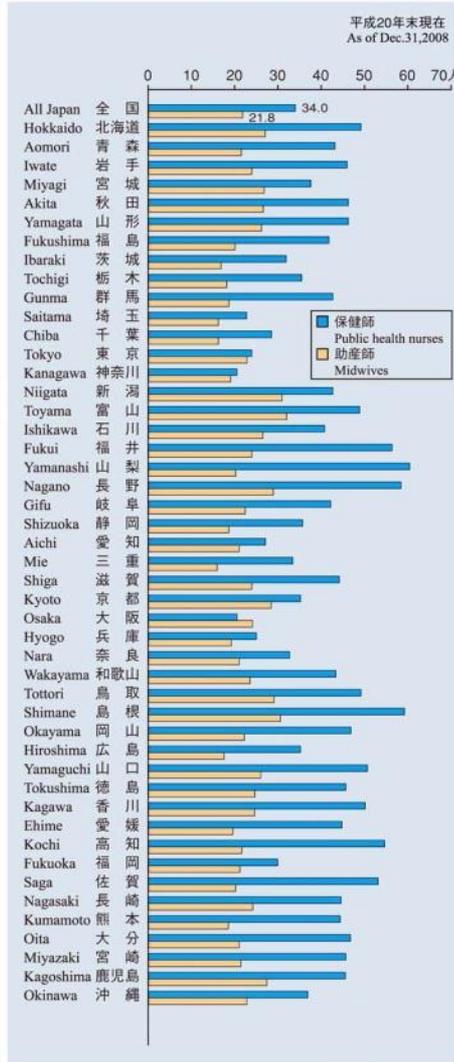
1. 鳥取県西部地区の医療資源の状況  
特に病床、医師、看護師
2. 鳥取県西部地区の医療・福祉関係者の  
連携状況・在宅死亡の現状
3. 当院の活動実績  
(講演会、研修会、アンケート、情報共有)
4. 医療資源充足地区でがん在宅医療を更に  
充実するには？

# 都道府県別の人口10万人対従事医師数(病院・診療所)



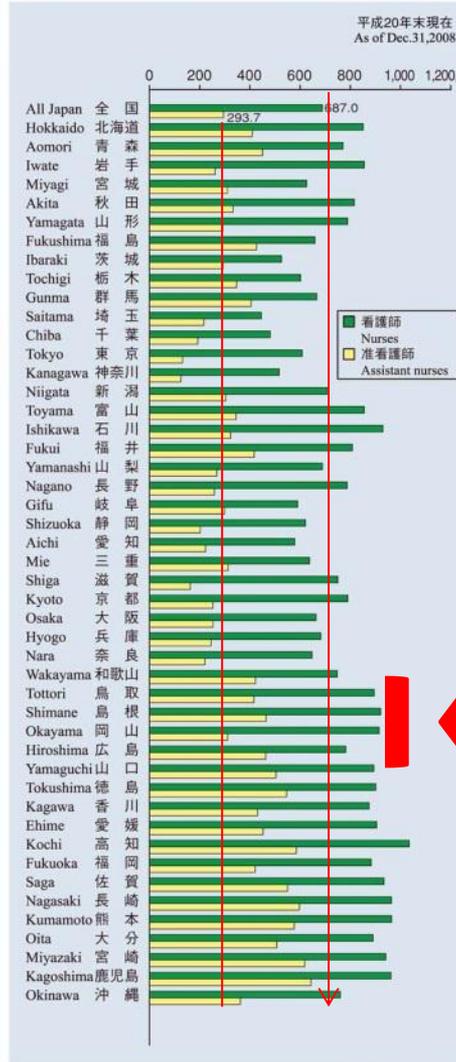
(出典)平成18年 医師・歯科医師・薬剤師調査

3-13 都道府県別にみた人口10万対  
就業保健師数・助産師数 —平成20年—  
Number of currently working public  
health nurses/midwives per 100,000  
population by prefecture,2008



(衛生行政報告例)  
(Report on Public Health Administration and Services)

3-14 都道府県別にみた人口10万対  
就業看護師数・准看護師数 —平成20年—  
Number of currently working nurses/  
assistant nurses per 100,000 population  
by prefecture,2008

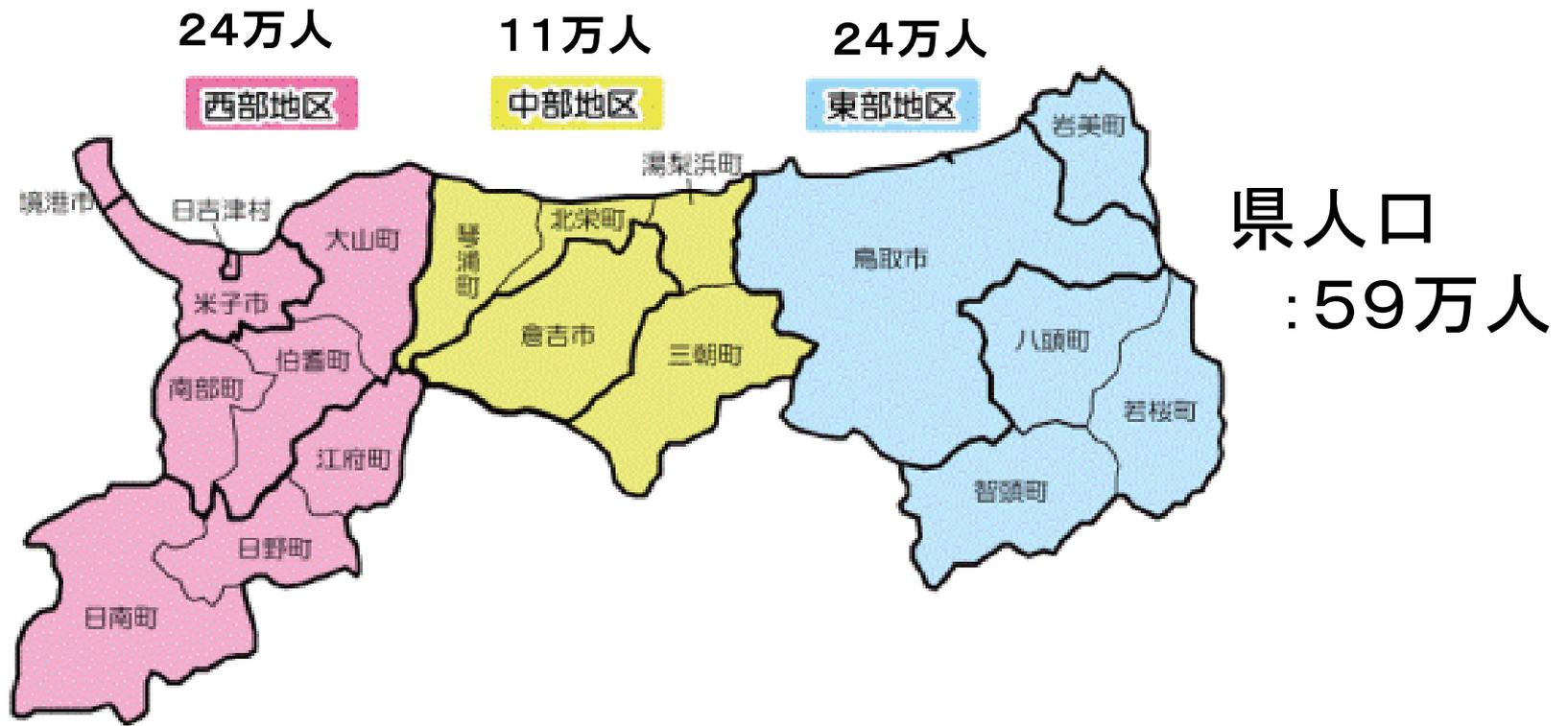


(衛生行政報告例)  
(Report on Public Health Administration and Services)

都道府県別  
人口10万人対  
就業看護師:687  
准看護師:294  
(全国平均)



鳥取  
島根  
岡山  
広島  
山口



	病床充足率(%)	病床(一般+療養)数	病院医師数	病院看護師数	診療所数	診療所病床数
東部	107	2850	300	1590	204	204
中部	125	1399	143	622	93	180
西部	129	3057	617	1702	236	446

# 本日の内容

1. 鳥取県西部地区の医療資源の状況  
特に病床、医師、看護師
2. 鳥取県西部地区の医療・福祉関係者の  
連携状況・在宅死亡の現状
3. 当院の活動実績  
(講演会、研修会、アンケート、情報共有)
4. 医療資源充足地区でがん在宅医療を更に  
充実するには？



## 「西部在宅ケア研究会」 発足の回想と今

鳥取県西部医師会 副会長 飛田 義信

「西部在宅ケア研究会」？、多くの先生方には「聞いたことはあるが、どんな会なのか、何をしている会なのかは知らない」と思われている会ではないかと思います。

本会は、2000年に医療、保健、福祉が横断的に連携することが求められた介護保険制度の施行に合わせて、西部医師会が歯科医師会と薬剤師会の協力を得て立ち上げ、三師会から予算を頂いて運営されています。

何を目的とした会なのか？ 『在宅ケアに関わる多職種の人達が一堂に会する場を作りたい！、「円滑な連携を進め深める（顔見知り）場」、「情報交換をする場」、「研鑽をする場」を提供し知識を共有することによって、在宅療養をしている人のQOL向

目的と研究会の在り方や運営について熱心に検討・協議をして頂きました。

第1回「西部在宅ケア研究会」は、2000年8月23日（水）19時から西部歯科医師会館で「介護保険への新たな連携をめざして」をテーマにして5人のパネラーによるパネルディスカッション形式で開催しました。参加者がどれだけあるのか、大変不安でしたが、予想だにしない254人の参加者で駐車場は一杯となり、会場では中に入れない人が多数出て大慌てをしたことが鮮明に思い出されます。後日、当時西部医師会副会長であった細田庸夫先生から「参加者が少ないだろうと心配して行ってみたら、駐車場が満杯だったので安心して帰った。」との温かい連絡を頂いたことも嬉しかった思い出です。

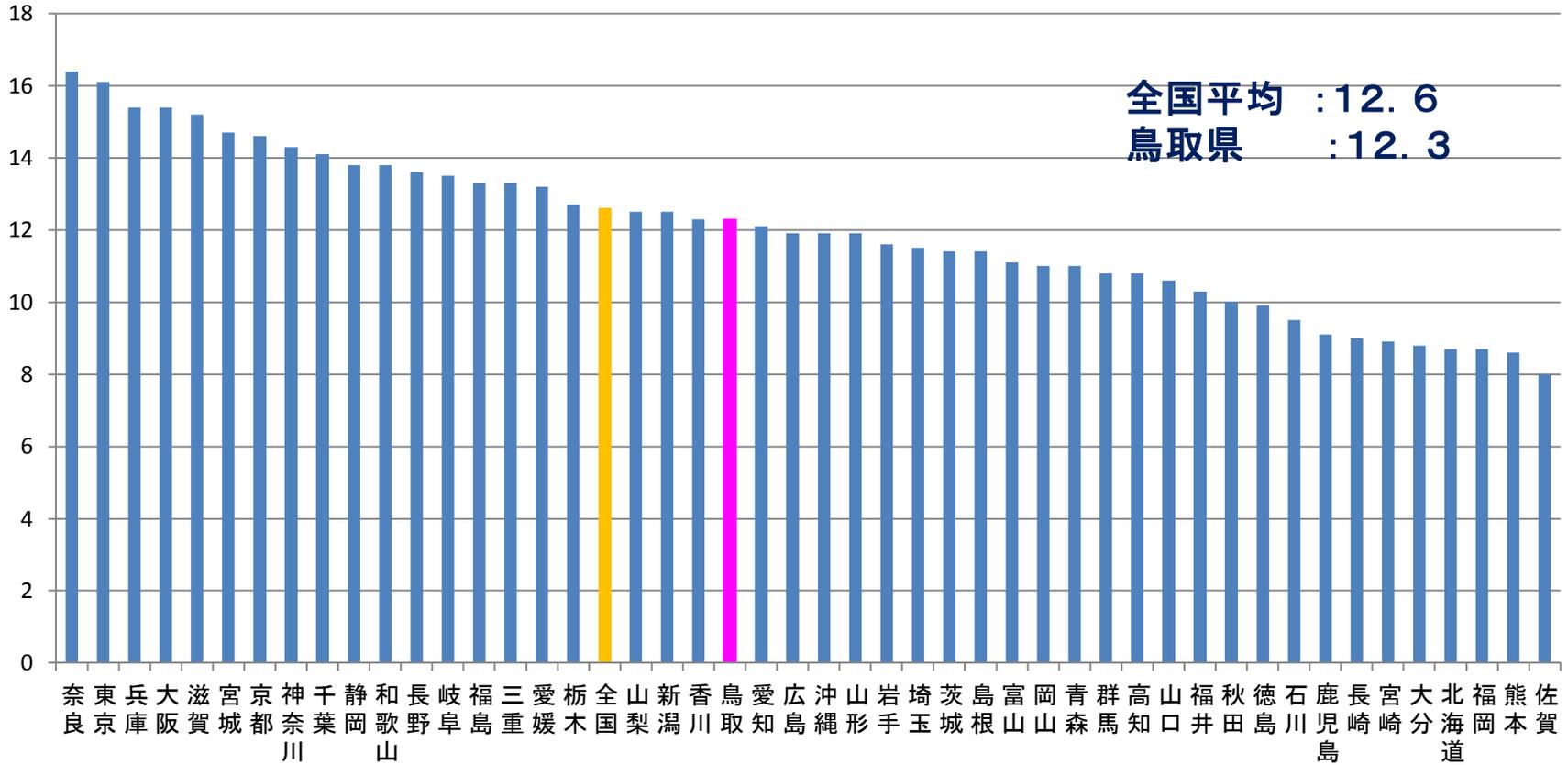
第1回：254名

年に 3~4回  
46回  
平均118人/回  
1982名の個人  
毎月世話人会

**顔の見える多職種連携の場は  
10年以上前から設定されている**

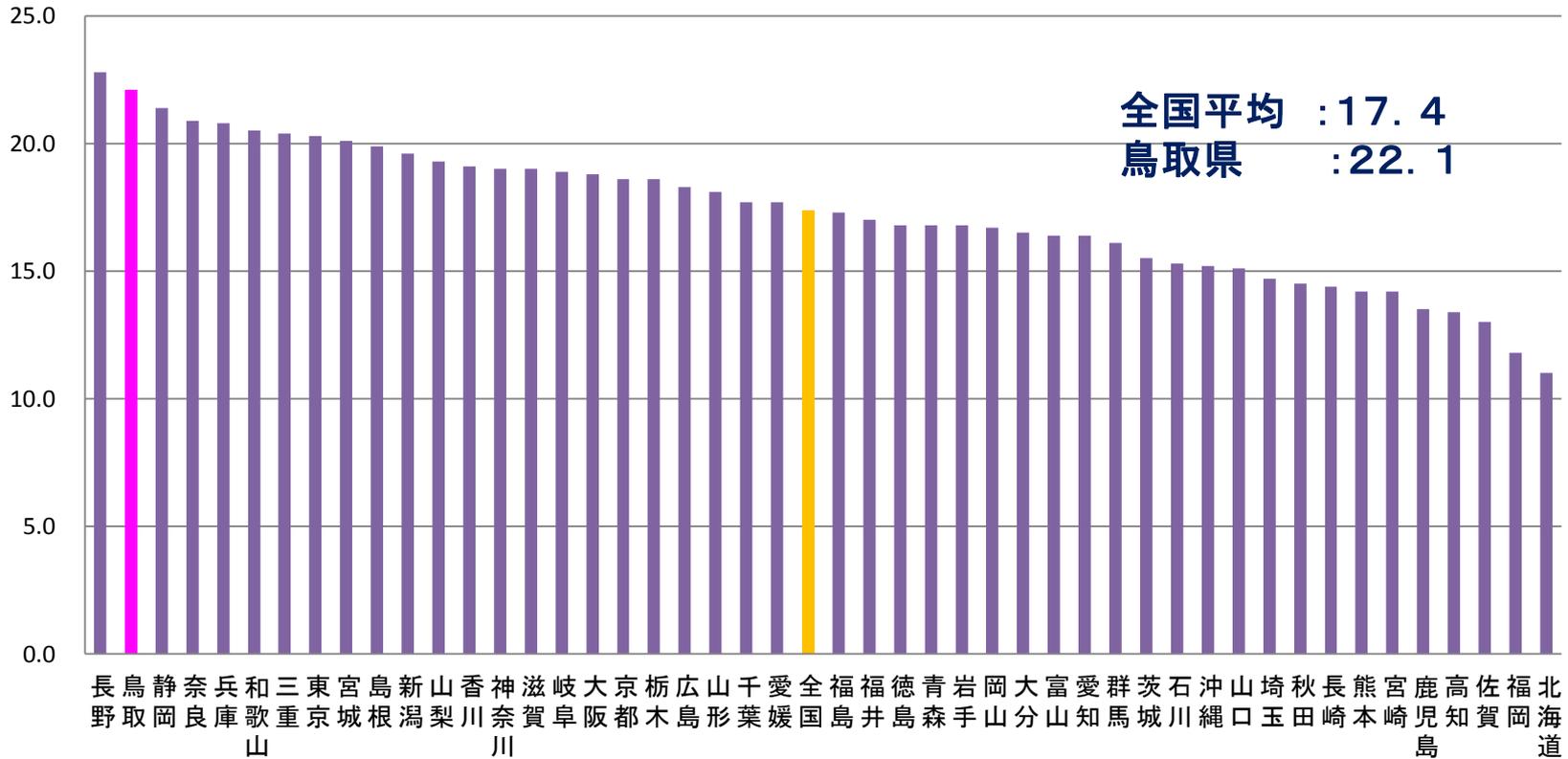
2000年  
介護保険開始  
医療、保健、  
福祉の  
横断的連携  
医師会、  
歯科医師会  
薬剤師会  
予算

# 自宅死亡率(%)



データソース:平成22年人口動態調査 厚生労働省大臣官房統計情報部  
加工:米子医療センター 地域医療連携室

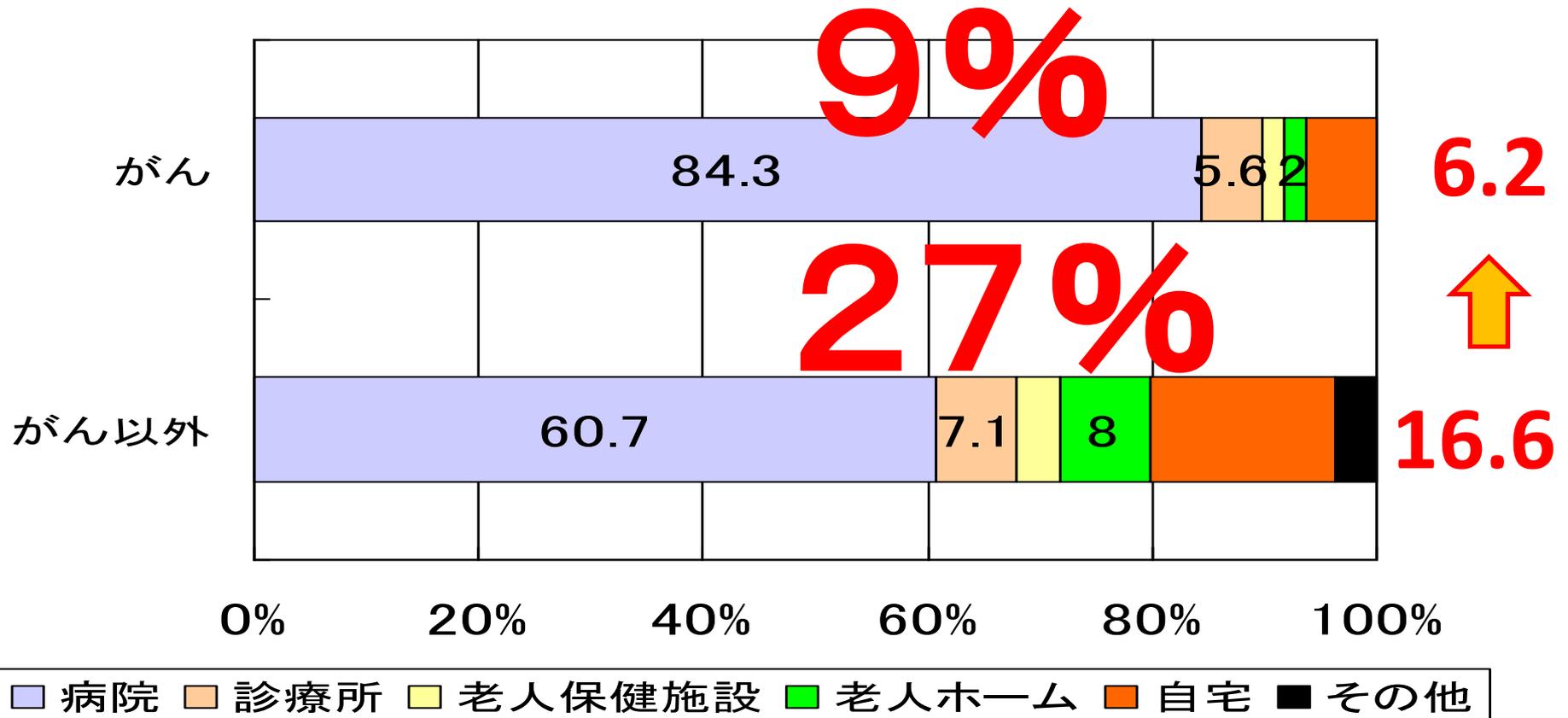
# 在宅死亡率(%)



データソース: 平成22年人口動態調査 厚生労働省大臣官房統計情報部  
加工: 米子医療センター 地域医療連携室

# 西部地区 死因別の死亡場所

平成21年度鳥取県人口動態統計より



# 小括 1

1. 鳥取県西部は医療資源の充足した地域であり、医師会主導による顔の見える多職種連携の会はできている。
2. 自宅での死亡は平均以下だが、在宅死亡は全国的にも高い水準となっている。
3. がん患者の在宅死亡はがん以外の3分の1と少ない。

# 本日の内容

1. 鳥取県西部地区の医療資源の状況  
特に病床、医師、看護師
2. 鳥取県西部地区の医療・福祉関係者の  
連携状況・在宅医療の現状
3. 当院の活動実績  
(講演会、研修会、アンケート、情報共有)
4. 医療資源充足地区でがん在宅医療を更に  
充実するには？

# 在宅緩和ケア実地研修

2005(平成17)

地域がん診療連携  
拠点病院

2007:緩和ケア概論  
在宅輸液



2010:リンパ浮腫に  
ついて

2011:在宅での褥瘡  
管理

診療所の医師、  
診療所の看護師、  
訪問看護師、  
ケアマネ、ヘルパー  
調剤薬局の薬剤師



# 今年度 在宅緩和ケア実地研修

平成19年(2007)1月～より継続

7月 7日:リンパ浮腫、講義、実習	60名 (院外52)
7月12日:緩和ケア検討会 講義	79名 (院外31)
7月21日:がん看護研修 講義	61名 (院外25)
10月20日:抗がん剤の副作用と看護	22名 (院外10)
10月21日:ストマケアの基本	
— 講義、実習	35名 (院外29)
1月17日:4回にわたり無菌調剤について	
調剤薬局薬剤師への研修	(院外 5)
2月中旬:TPNポート使用の研修	

# 2012. 7. 7 在宅緩和ケア実地研修 リンパ浮腫に対する治療、講義、実習



院内8名、院外52名

# 『在宅がん終末期医療推進のための講演会』

日時 : 平成 18 年 11 月 29 日 (水) 19:00より  
場所 : ホテルサンルート米子 2F 「芙蓉」  
米子市西福原 1-1-55 TEL 0859-33-0911

あいさつ 19:00 鳥取県西部医師会長 魚谷 純

一般演題 19:05~  
座長 国立病院機構 米子医療センター 内科系診療部長 山本哲夫

「在宅治療が可能となった進行食道癌の一例」  
～在宅医療を希望された患者さんへの取り組み～

米子医療センター 消化器科医長	片山俊介
米子医療センター 2階病棟看護師	谷野紀子
小林外科内科医院 院長	小林 哲
済生会訪問看護ステーション白鷗 主任	木村美美

特別講演 19:30~  
座長 国立病院機構 米子医療センター 副院長 浜副隆一

『地域に緩和ケアを広げよう』  
～緩和ケア病棟から一般病棟、そして在宅まで～

広島県緩和ケア支援センター  
センター長 本家好文 先生  
(県立広島病院緩和ケア科 部長)

共催 鳥取県医師会 鳥取県西部医師会  
国立病院機構 米子医療センター (地域がん診療連携拠点病院)



会場

ベルライトよなご

日時

2008年12月20日(土)  
午後2時～5時

# 地域がん診療連携拠点病院 米子医療センター がん医療講演会



1 午後2時～ パネルディスカッション  
更なる在宅がん医療の充実に向けて

1. 在宅がん医療を希望した事例を経験して  
米子医療センター2階病棟看護師 入江恵子
2. 在宅がん医療を希望する患者、家族の状況  
米子医療センターがん相談支援センター看護師長 高橋美保子
3. 往診医の立場から 堤消化器クリニック 院長 堤 貴司
4. 訪問看護師から すみれ訪問看護ステーション 吉野康子
5. 最期を看取った経験から 家族代表

2 午後3時30分～  
「在宅医療を希望するがん患者、  
家族の心のサポート」



横浜市めぐみ在宅クリニック  
院長 小澤 竹俊

## I 更なる在宅医療の充実 に向けて

- 1 米子医療センター看護師
- 2 米子医療センターがん相談支援センター 看護師長
- 3 往診医より(堤消化器クリニック)
- 4 訪問看護師より  
(すみれ訪問看護ステーション)
- 5 最期を看取った家族より

地域の医師:9名  
地域の看護師:43名  
介護・福祉関係者:29名  
地域より合計81名

# 地元紙を利用しての啓発活動

2012年(平成24年)12月16日 日曜日 (12)

## 米子医療センターがん医療講演会

### テーマ「地域で取り組む緩和ケア」

〈コーディネーター〉  
西都総合事務所福祉保健局副局長 大城陽子氏  
米子医療センター副院長 山本哲夫氏

### 命を生き切るために

「命を生き切るために」という言葉は、がん患者にとって、ががの苦しみを取り除き、生き残ることに繋がります。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 「あいさつ」

米子医療センター 院長 浜副隆一  
「緩和ケア」は、がん患者の苦しみを取り除き、生き残ることに繋がります。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 緩和ケア病棟と地域を結ぶ

山口幸十字病院副院長 緩和ケア科 末永 和之氏



### 緩和ケアの連携体制

患者及び家族の選択により、在宅医療や病棟での治療を選択できる体制が構築されています。

### 患者に合った支援

病院長 太田 くによ氏  
「患者に合った支援」とは、患者の状況やニーズに合わせて、適切な医療やケアを提供することです。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 不安なくす仲介役

ケアマネジャー 小山 雅美氏  
「不安なくす仲介役」とは、患者や家族の不安を取り除き、適切なケアを提供することです。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 処方薬正しく理解

薬剤師 村上 剛氏  
「処方薬正しく理解」とは、処方された薬の正しい使い方や副作用について、患者や家族に正しい知識を提供することです。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 24時間体制で連携

訪問看護師 岡田 悦子氏  
「24時間体制で連携」とは、患者の症状や状態に応じて、24時間体制で連携してケアを提供することです。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 在宅医療サポート

診療医師 飛田 義信氏  
「在宅医療サポート」とは、在宅で生活しながら、適切な医療やケアを提供することです。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

### 現状報告

講演会の様子や、緩和ケアの現状について報告が行われました。がんは、がん細胞が体内に増殖し、周囲の正常な細胞を侵襲し、最終的に臓器の機能を失って命を奪っていく病気です。

2012、12、16  
日本海新聞

在宅医療と在宅看取りに関する実態調査  
— 報告書 —

平成24年7月  
公益社団法人 鳥取県西部医師会

## 在宅医療と在宅看取りに 関する実態調査

2012年4月に西部医師会  
(在宅医療推進委員会)がアンケート  
無記名、個人特定できない、非公表

訪問診療は、内科、外科のいずれかを  
標榜する医療機関のうち76%が実施

上記以外の診療所医師は興味ない



在宅医療対応状況調査  
拠点事業として看取り(がんも)、麻薬  
処方等をホームページ上での公表前提、  
内科、外科診療所対象、期間内に  
回答無ければ診療所名も載せません

在宅医療対応状況・かかりつけ医連絡方法

送り先：米子医療センター 地域医療連携室

直通FAX 0859-37-3931

医療機関名	野坂医院			担当医	野坂 美仁		
				医師の代理で対応可能な方	入江(看護師)		
住所	〒 689-3532	米子市	上新印 256-6	電話 0859-27-0610	FAX 0859-27-5268		
在宅医療の取組み	主治医意見書の記載			・対応している		・していない	
	訪問診療			・対応している	・要相談	・していない	
	かかりつけ患者の往診			・対応している		・していない	
	麻薬の処方			・対応している		・していない	
	がん患者の在宅の看取り			・対応している	・要相談	・していない	
	在宅の看取り			・対応している	・要相談	・していない	
	在宅支援診療所の届出			・対応している		・していない	

病院で開催  
同カンファ  
への参加

**110カ所郵送し、105カ所より回答**

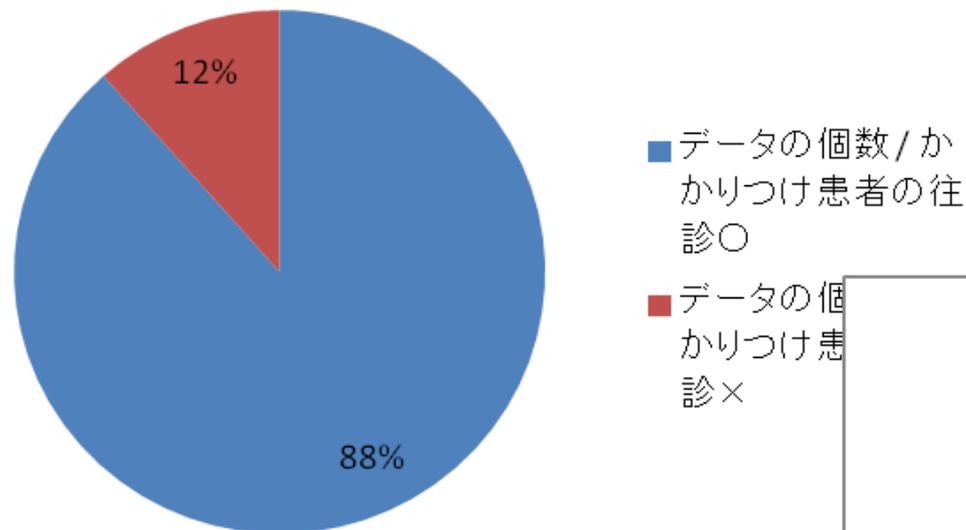
サービス担当者会議(ケースカンファレンス)への医師の参加	主治医の都合の時間で医療機関にて開催の場合	・30分以内なら可能	・15分以内なら可能	・困難
	訪問診療に併せて開催の場合	・30分以内なら可能	・15分以内なら可能	・困難

ケアマネ等と面会可能な時間帯(時間を記入)	月	火	水	木	金	土
	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談

多職種への要望(連絡時の注意事項を含む)

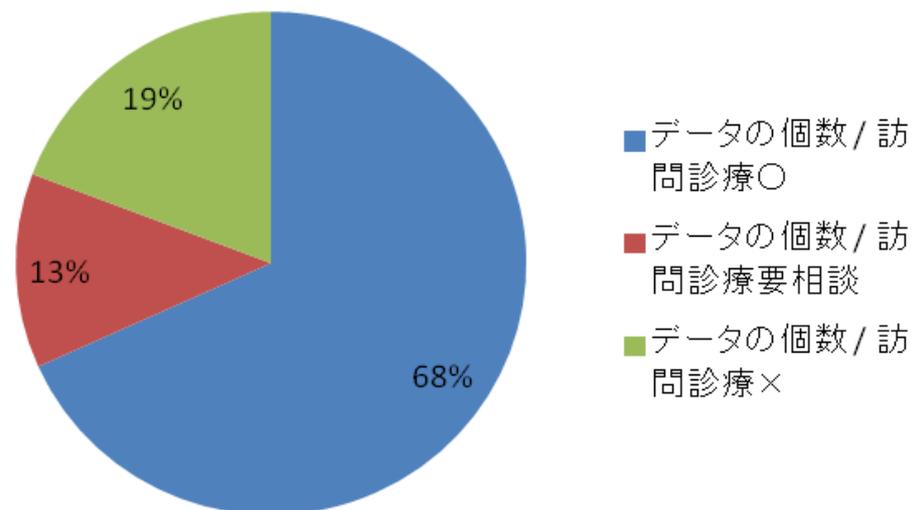
・「病院で開催される退院合同カンファレンス」・「ケアマネ等と面会」・「多職種への要望」については適宜、電話等での事前調査にて対応します。お気軽に連絡ください。

## かかりつけ患者の往診

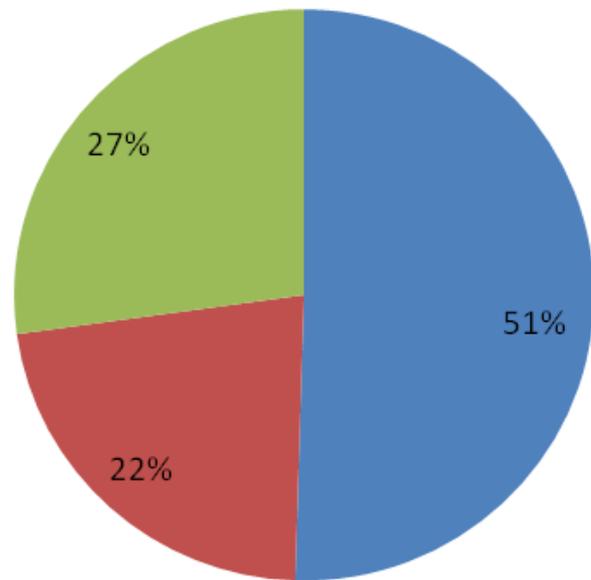


約20%  
往診はするが、  
訪問診療はしない

## 訪問診療



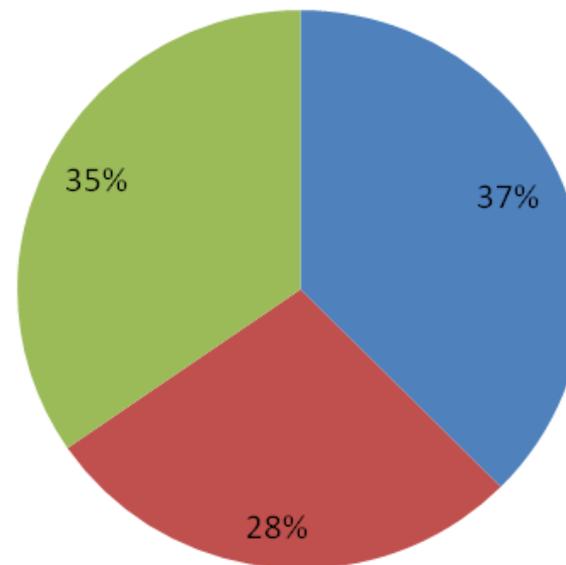
## 在宅の看取り



- データの個数 / 在宅の看取り○
- データの個数 / 在宅の看取り要相談

データの個数 / 在宅の

## がん患者在宅の看取り



- データの個数 / がん患者の在宅の看取り○
- データの個数 / がん患者の在宅の看取り要相談
- データの個数 / がん患者の在宅の看取り×

看取りはするが、  
がんとなると腰が引ける

# ケアマネージャーへのアンケートと研修

11月に鳥取県西部地区の地域包括支援センター、  
居宅介護支援事業所合計79カ所にアンケート送付  
内容;ケアマネージャー対象、FAXで返送

- 1、医療連携で困ったことあるか
- 2、希望する研修

回答 173名

## 病院に対する要望多い

- ・特に、医師の対応、病棟看護師の介護保険への知識不足、  
認知不足など
- ・診療所の医師に行ったアンケート(在宅医療対応状況・  
かかりつけ医連絡法)とても良かった、活用している  
同じ内容で、病院勤務医版を作ってほしい  
実現困難?

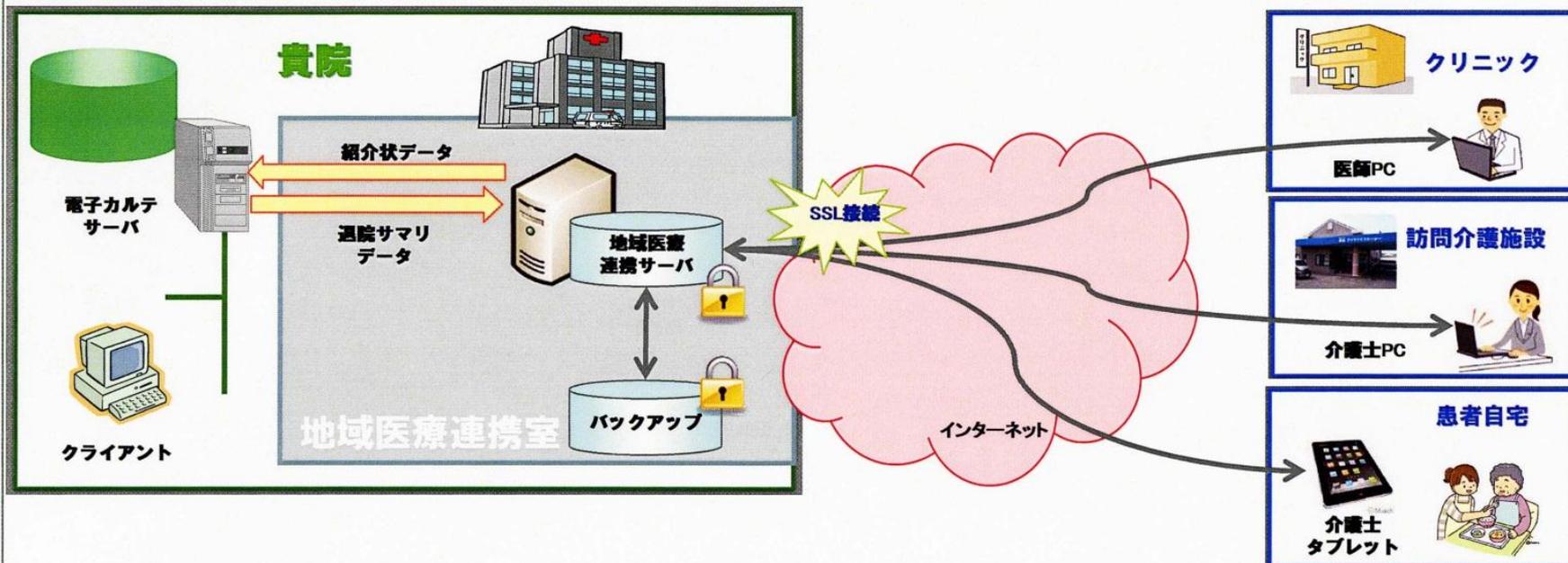
# 地域包括支援センター方との意見交換会

- 1、研修内容の決定
- 2、地域の病院の地域医療連携室への要望等

**医療制度に関する研修を！  
地域包括と市内の病院の地域医療連携室との  
意見交換の場を！**

# システム構成

地域医療連携サーバとバックアップは貴院にあり、周辺施設からはインターネット経由で閲覧可能



- 中核病院のサーバと周辺施設のクライアントPC・タブレットですべてが完結します。
- 中核病院の一部サーバを外部に公開する必要があります。
- 物理的にサーバを中核病院の監視下に置くことができます。
- 災害などによるデータ消失に弱い面がありますので、バックアップメディアを別の場所に保存することをお勧めします。

## 小括 2

1. 在宅医療に対する医師の温度差
2. がんとなると腰が引ける
3. 地域医療連携室間の連携、院内での連携
4. 地域住民、患者へのPRは十分か？

# 本日の内容

1. 鳥取県西部地区の医療資源の状況  
特に病床、医師、看護師
2. 鳥取県西部地区の医療・福祉関係者の  
連携状況・在宅医療の現状
3. 当院の活動実績  
(講演会、研修会、アンケート、情報共有)
4. 医療資源充足地区でがん在宅医療を更に  
充実するには？

住民の意識改革



在宅医療需要の増加

収益性  
(医療、介護)

宣伝  
啓発



患者・家族の満足



事業者の増加  
(医師、訪看、介護等)

質の向上

研修

緩和ケア病棟  
平成26年開設





おわり